



新橋

11月13日(金)

晴れ

歴史

街

顔

煉瓦

演舞場

昼⇄夜

サラリーマン聖地のこの場所でいつもの行きつけの飲食店で食事をさっとすました後次の打合せの為に改札を駆け下りる、天井のスタイリッシュな素材が空間に広がりを生み出しサイネージには株価の数字が目まぐるしく変化していく、今日も忙しい一日になりそうだ、明治時代に頻発する大火への対策として政府が東京府に対して煉瓦造りの建物を創るよう命じた過去の歴史を次世にも伝えていくために、改札には当時使われていた煉瓦をカラーガラスで覆った設えと、ホームはこれまで新橋の街を支えてきた煉瓦の目地からは次世代への継承していく、希望の光の象徴であるレモンイエローのラインが駅を利用する人や、駅を彩る。新橋演舞場の緞帳を彷彿させる設えは、舞台の演幕があたり毎日の日常生活からハッピーストーリーでも生まれそうな予感さえ感じさせる。夕方打合せ先から新橋駅へ戻ってくると、駅の光が温かみある電球色に変化して、時の移ろいを感じながらも一日の疲れに気づかされる。サイネージの画面には演舞場の公演予定のスケジュールやお勧めの飲食店の情報が食欲をそる。あー最近ゆっくりと舞台なんて見てないな、いつも忙しくここを通り過ぎるけど、今度時間がとれる日にはゆっくりと『新橋グルメツアー』なんてものをやってみようかな。



ヒ	ト	の	顔
マ	チ	の	顔
っ	な	ぐ	駅

人が歴史をつくる。街をつくる。つながりをつくる。

街は歴史を見ている。進化している。出会いをもたらす。

ビジネスマンには顔がある。仕事の顔、家庭の顔、休日の顔。

街にも顔がある。昼のビジネス街、夜の繁華街、休日の安らぎの街。

駅は人と街をつなぐ顔を持つ。

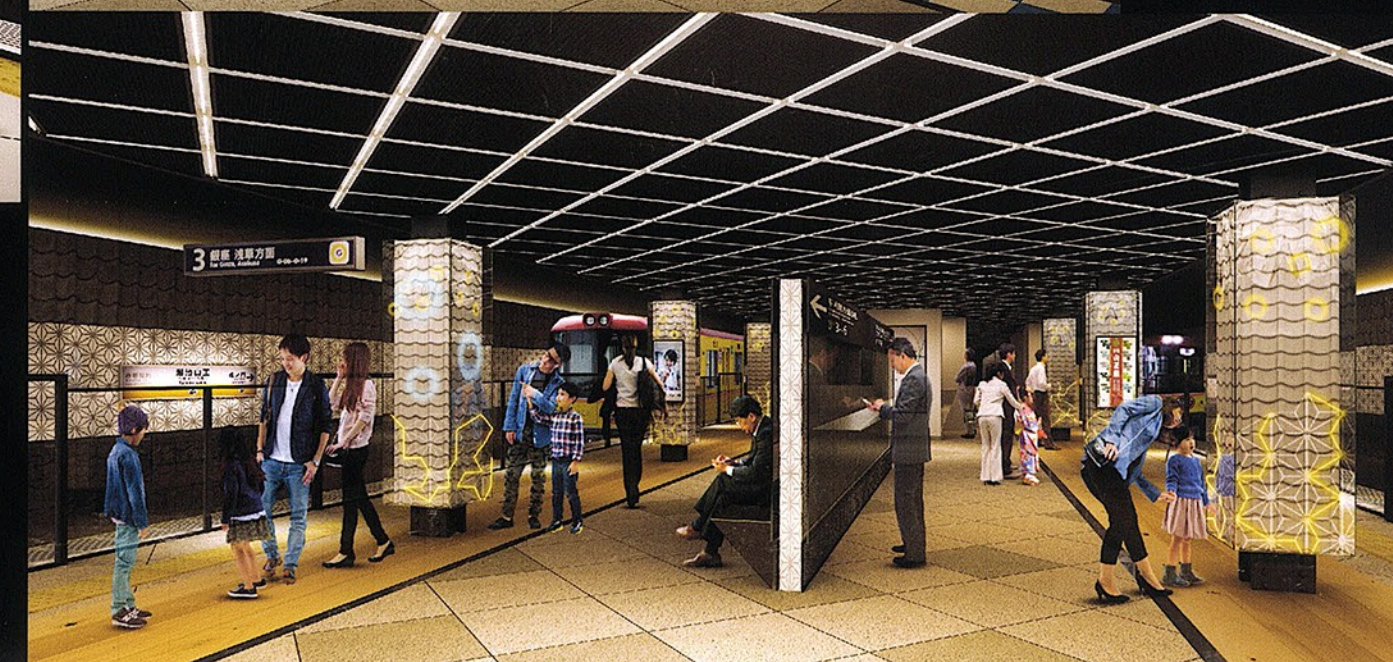


ユーザー像-序文-

単身赴任で九州からここ東京に来てはや半年。今週末には義理の母とともに、去年誕生した待望の娘が妻と東京に来る。マスメディア最大手企業に勤める私はせわしく毎日を駆け回る生活だが、今週末だけは久しぶりにゆっくりと子供の顔が見られる。電車好きな息子にも東京のかっこいい駅を自慢してやるか、さあ今日は金曜日、大好きなあのお店で昼食した後は大きなプロジェクトへのミーティングへと乗り込むが。



今日は息子の晴れ舞台。幼少期、両親に連れられて七五三のお祝いをしてもらった日枝神社、自分の息子に自分と同じようにお祝いができることに感慨深いものがある。清々しい気分て参拝を済ませ溜池山王の駅に戻ると、忙しく働いている平日には気付かなかった駅の変化が目に残った。改札周りにあるモニターには七五三に関する豆知識が流れていた。もともと七五三は徳川綱吉の長男の健康を祝って始まったらしい。壁には瓦があしらわれており、足元には水をイメージしたようなリズムカルなタイルは日本の風情を感じさせ、晴れ姿の息子もよく映える感じた。久しぶりの子供の手に引っ張られながらホームに上ると、柱はガラスに光がさした先進的なデザインになっており、息子が光の柱に触ると水の波紋が広がり電車が来るまでの間夢中になって触っていた。床も、安全な範囲がわかりやすく温かみある木目のデザインで区切られている。子供にも東京の駅を見せることができたし、家族の笑顔を見て明日からの英気を養う一日を過ごすことができた。



赤坂見附 11月16日(月) 曇り

歴史

街

顔

石垣

クローバル

マスメディア⇄政界

商談先の最寄りの赤坂見附駅のホームに久しぶりに降りると、そこは石垣に囲まれているような、重厚感のあるホームになっていた。駅の事が気になりスマホで調べてみると赤坂見附は、江戸城の城門の一つで警備の武士が詰める番所としての機能を持つ城門が見附と呼ばれていたようだ。かつて36箇所あった見附の多くは取り壊されたが、赤坂見附はその一部であった石垣が現存しており、駅名としても残されている貴重な事例であるという。まさに、その歴史を感じさせる設えである。打ち合わせまでまだ少し時間があつた。ホームを抜け、改札を出ると目に入ったのはモバイルワークスペースだった。そのスペースはタブレット端末で資料を見ながら電話をするのにちょうど良く、スキマ時間に電話で打ち合わせを済ませることができた。おかげで仕事を一つ片付けることができた。赤坂見附の歴史を象徴する石材と、先鋭的なガラスとレモンイエローの光が絶妙に融合しているスタイリッシュな設えのコンコースがとても印象に残っている。

溜池山王

11月15日(日)

晴天

歴史

街

顔

瓦

水

休日⇄平日

MTR-A-0148